

ボンボニエール図鑑

図鑑の読み方：名称 [素材]・家紋・催事名・催事年・縦×横×高(cm) / 重量(g) ★印は個人蔵(表記のないものは当館收藏品)

● 時代をみる

時代順に並べてみると、素材に変遷があることがわかります。明治から大正期には木製のものが多く見られます。その後、銀製の最盛期を迎えますが、昭和15年(1940)の「奢侈品等製造販売制限規則」以降、銀は使用出来なくなり、代替素材で製作されました。戦後、昭和24年(1949)に製作されたボンボニエールはプラスチック製です。その後また銀製が復活し、そして平成を迎える頃から陶磁器製が主流になっていきます。



● 形をみる

ボンボニエールという西洋風の名称とはうらはらに、日本の意匠が多く用いられています。外国賓客に日本の伝統、工芸技術を紹介・宣伝する狙いがあったと考えられます。その他、時代を写す形のものも作られました。



● 広がりを見る

ボンボニエールは皇室の慶事に伴う引出物として誕生しましたが、その後、華族家や民間にも広がります。



[特集：李王家紋のボンボニエール]

